

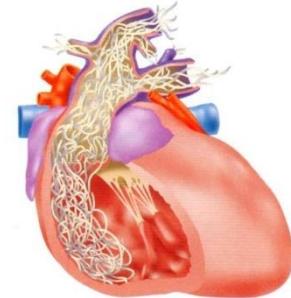
花粉症がつらい季節がやってきました(>_<)私は小学生の時に初めて症状が出たので、かれこれ20年くらいの付き合いになります・・・ぽかぽか陽気に誘われて外に飛び出したいですが、中々重い腰が上がらない今日この頃です(^_^;)

さて、当院では毎年のフィラリア予防の推奨期間が6月～12月までだったのが、4月下旬～12月下旬までに変更となりました。そこで、どうしてそうなったのか、また、改めてフィラリアとは何ぞや~というお話をていきたいと思います。

フィラリア（犬糸状虫）とは？

蚊が媒介する寄生虫のことで、成虫になると30cm程にもなり、

そうめんのような姿をしています。この成虫が肺動脈や心臓に寄生することでフィラリア症を引き起こし、様々な障害が発生します。



フィラリアが寄生した心臓

これを放置してしまうと、最悪の場合、死に至ることもあるとても恐ろしい病気です。

フィラリア症の症状

フィラリア症になると、散歩中にとても疲れやすくなったり、いつもは登っていた段差を登るのを嫌がったり、興奮したときに乾いた咳をしたりなどの症状が見られることがあります。他にも、急激に痩せてきた、でもお腹が不自然に膨れていといった症状も見られます。



フィラリア症感染までの仕組みと投薬期間

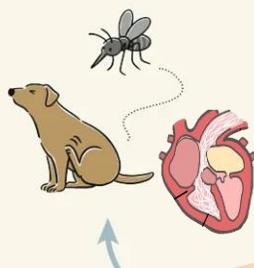
冒頭でフィラリアはとても恐ろしい病気だとお伝えしましたが、しっかり予防をすれば100%防ぐことが出来る病気です。予防といってもフィラリアのお薬は実は駆虫薬、予防のためには毎月の駆虫薬の投薬が重要になってきます。

1. 感染犬を蚊が吸血

感染犬の血液中には
ミクロフィラリアが存在



5. フィラリアは
成虫になると
犬の心臓や肺動脈に
寄生し、成虫は
ミクロフィラリアを産む



2. 蚊の体内で、
ミクロフィラリアが
幼虫に発育

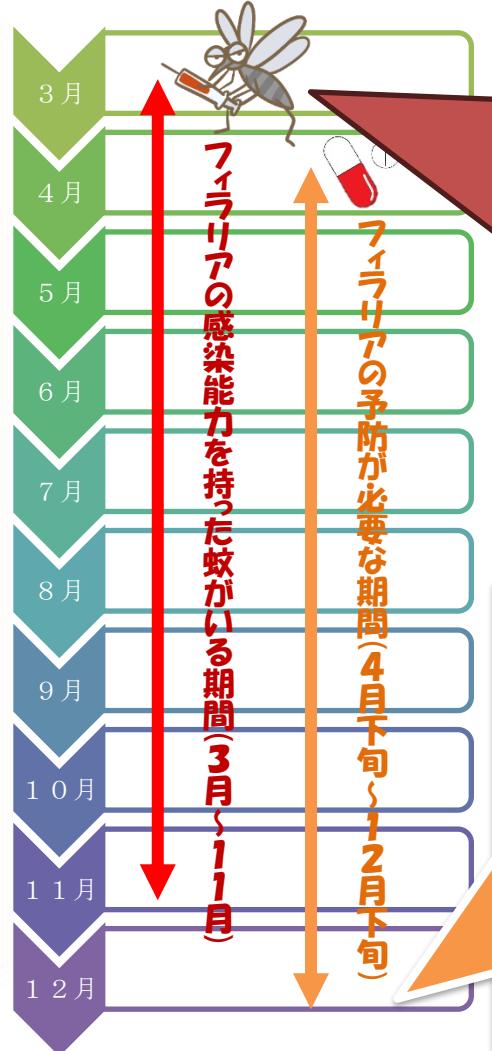


3. 感染の成立

蚊が犬を吸血する際に、
幼虫が犬の体内に侵入



4. 感染後2~3ヶ月かけて成
長して血管内へ移動していく。
血管内に侵入する前の、この期
間内に投薬することで幼虫を
駆虫していくよ！



12月は蚊を見かけなくなるから投薬を忘れがち、最後の投薬が一番大事だよ！
投薬は12月下旬まで！！

投薬前の血液検査と予防薬の種類

フィラリア症に感染しているわんちゃんに予防薬を投与してしまうと重篤な症状が起こる場合があります。そのため、毎シーズン、最初の投薬の前にフィラリア症に感染していないか血液検査を行い、感染していないことを確認してから投薬を始めます。



チュアフルタイプ



ノミ、マダニの予防も
一緒に出来るよ！



錠剤タイプ



スポットタイプ

ノミの予防も一緒に
出来るよ！



注射タイプ



ワンシーズンの予防がお注射
1回で完了します。